

食料醸界新聞

永井酒造

「尾瀬の水芭蕉プロジェクト」

SDGs発想の新しい日本酒発売

永井酒造は、群馬県尾瀬イル酒、デザート酒(3種の環境保全をコンセプト)を10日に発売。3日に都内した、SDGs発想の新しい発表会を開催し、永井則い日本酒「MIZUBASHO」吉代表取締役、ラベルをデザインした俳優の片岡鶴太郎(スパークリング酒、ステ)郎さんが登壇した。



永井社長(右)と片岡鶴太郎さん

「MIZUBASHO Artist Series」は、三条印刷、東京パワーテクノロジの三社共同で企画した、尾瀬の生態系を守り再生する「尾瀬の水芭蕉プロジェクト」に賛同したアーティストとコラボした商品。第1弾は群馬県にゆかりのある俳優の片岡鶴太郎

さんが、ラベルの水芭蕉の花をデザイン。売り上げの5%をプロジェクト資金として寄付する。

「スパークリング酒」は、口当たりの柔らかいシルキーな泡と白桃や林檍のような香味が調和。360ミリ瓶、アルコール分12%、税別小売1200円。

片岡鶴太郎さんがラベルデザイン

「ステイル酒」は、ライチのような甘い口当たりと、ほのかなグレイプフルーツのフレーバーを感じる、なめらかで軽快な味わい。720ミリ瓶、同15%、1300円。「デザート酒」は、パッションフルーツやアプリコットを連想させる上品な甘味。スイ

ーツや果物、チーズなどにも合う。300ミリ瓶、同12%、1000円。

永井社長は「本プロジェクトは国税庁『日本産酒類のブランド化推進事業』に認定されている『アーティストコラボ』食とのペアリング十カジュアルライン提案』『特定名称酒を表記しない』『女性インフルエンサーによる付加価値創造』『ウィーガン対応』の6つの挑戦で、新しい日本酒体験の創造と発信、自然保護による持続可能な地域社会実現を目指す」と話した。